

NAGANO-KEN CLUB

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

JIA長野県クラブ



新年号
Vol.72
2007
01.01

「真に守るべきものはあるか」—— JIA長野県クラブ総務委員長 山口 康憲

4月にイタリアへ行ってきましたが、予想通り大きなカルチャー・ショックを受けて帰ってきました。日本と比較しても呆然とするだけですが、今までの自分の不遜さにも打ちのめされました。「現在」という時空は今を生きる自分のものだと思っていましたが、先人の遺産・遺志、連綿と受け継がれて来たもの—地域の伝統・風習を未来に引き継ぐ為にあるのではないかと考え始めている自分がいます。

この一年間わが国の建築界を根幹から揺るがしてきた「耐震擬装問題」は、迷走の末建築基準法・建築士法の改正で収束に向かうかに見えます。細部は省令で決定されるという事のでかなりの部分がまだ明確ではありませんが、方向としてはJIAにとって厳しいものとなりそうです。恒例の年末の「本音で語ろう会」はこのような状況下で伊平関東甲信越支部長をお迎えしての講演と共に行われました。個人的にはJIAの将来に大いなる危機感を持って臨んだのですが、そこで語られた将来像も活発に行われた議論も、殆どが建築家の職能と倫理に関するものでした。私は驚き、呆れると共に、僭越な表現になるかもしれませんが、自分の中にJIAに対す

る愛しさのような気持ちが沸き上がって来るのを感じていました。それは存続の危機に際してもなお倫理を訴える高貴な純粋さに対してであり、JIAこそが建築の未来を切り開くとの思いを強くしました。

最近のいじめによる自殺に対して、戦後日本人は自分が他者に与えることではなく、「与えられる」ことだけをひたすら求めて来た。その結果が人心の荒廃であり、現在起きている多くの社会的現象や事件を作り出している源である。いじめによる自殺は弱者の恐喝である、なぜ自身で立ち上がれないのか、という論考に接して目からウロコが落ちる思いでした。

今我々はJIAに参加する自身のメリットを考えるのではなく、地域社会の為に、建築を目指す将来の建築家達の為に建築家の職能を、建築設計の統括・独立性の重要性をねばり強く社会に訴え続ける行動を各々が自発的に起こすべき時なのではないでしょうか。



10月28日(土)保存問題委員会「銀座・日本橋・近代建築を見て歩く」

12月9日(土)恒例の3会合同委員会の行事が松本・崖の湯茜宿で開催されました。「正副委員長会」「幹事会」「本音で語ろう会」「技術交流会」そして「忘年会」と年に夏・冬の2度、9時間に及ぶ大イベントが40名の参加、さらに今回は、関東甲信越支部の伊平支部長をお招きしての開催でした。特に「本音で語ろう会」は何回となく取り上げてきた議題「建築家とは?…」の集大成と考え伊平支部長を囲んで「建築家憲章」の確認「登録建築家制度」「倫理規定」「入札問題」「建築家紹介システム」等々から進み「国家の品格」「男の品格」まで語られ、すべてが我々の倫理観。…と確信するなら態度で見せていかなければならない、との声。それぞれの意見に対し伊平支部長の答えを主に進行順不同ですが声を拾ってみました。

西沢 建築家が尊敬をもって見られている国をみると、人間として「美」も「感性」も、他の人と違う毅然とした態度と自己をもっていなければいけない。

川上 どの場所においても自分がある役目をしっかり持つ事、東京なら、地域なら、世界までも、自分の役目を果せなければならぬと思う。

市川 社会から認知されていないのは、我々自身と社会の建築を創るシステムの両方に問題がある、それをどうしていくか考えたい。

伊平 ・我々は生きるため自分の将来仕事として建築家を選んだわけで、皆さんは生きるためには多少倫理に外れた事もしようがないか。倫理があるから、食えなくても死にそうになっても倫理を持ち続けるか、と言うことをどう考えますか?

食うために、生きるために建築家としての倫理に外れるのであれば、食うためにでも建築家を仕事にしてはならないと思うし、建築家と言う職業、専門家としての職能を自分の仕事に選んだ限りは、倫理から外れてはいけない。

・CPD、継続教育と言うのはきちんとした安全性、快適性、環境・大事な国民・クライアントのお金を、半端じゃないお金を使って実現させる仕事をしているのだからそれに見合った技術力で応えなければいけない。

松下 2011年にUIAを日本で開催します、世界から大勢の建築家が日本に来られた時には入札制度は改まっていなければいけないと思うと仙田会長が言われた、いいことではないと分かっているもなかなか改められないのは残念、この信州からも自分の行動で示して行く以外にない。

久保 昨年まで長い時間をかけて児野職能委員長のもとで入札によらない設計者選定制度に対する我々の提案書を作った、是非是非つけて地道な行動が必要ですから…。

児野 幸いにも長野県は基本的な設計についてはプロポーザルにしたと言う中で、自由に参加し、審査も100%公開審査です。やはり法律として指名競争をやめ、なおかつ適正価格で発注すると言う部分が出来ないと、それが出来ると言うことが市民の合意になると思います。

伊平 「建築家は文化を創るんだから、建築は創造の行為だから」って一般市民に言ってもわからないですよね。分かりやすい建築文化を



発信しなければ…

西沢 文化は、その街で生きている人達が、習慣・慣習・生活の中で自然に生まれてきているもので、一般市民を巻き込んで、建築を見ながらお茶を飲む位のことではしなれば理解はしてもらえない。われわれのつくった仕事を見てもらう事が先決…

伊平 アーキテクトカフェをご存知ですか?これは仙田会長の事業発案・それと保存問題委員会がやっている一般の人参加してのウォッチング。

松下 長野地域会で何が出来るか、さっき幹事会で来年の事業計画を開きました。公共の場所を借りてクラブ一連の行事がある、一般の県民は知らないですよ、卒業設計コンクール・文化講演会・こんなものがありますと…建築作品の展示など今建築業界は社会問題化しています、こう言う時こそ一つの引き金になるのでは…がんばって皆さんで計画してみたら…

高橋 皆さんのいろんな意見を聞かせていただきました。感想です。すべて倫理観につながる、個々に倫理観の有る無しを言い合っても意味が無いある意味倫理観と言うのは、最初から素質のないものにはいくら教育しても多分ないでしょう…昔は親方がいて「何をやってんだ…駄目じゃないか」と言う教育があった、今はほとんど与えられていない。これは難しいと思うのですが社会そのものが、倫理観が失われていると思います。「国家の品格」さえもです…色々言われています。我々は仲間である以上ある程度のルールを持ちながら切磋琢磨して、いい方にもって行く様にすしかない。あまり急ぎ過ぎないこと、急ぎすぎるとギクシャクする、そうすると目的が達成出来なくなると思いますが…

赤羽 最後に情報発信をどんな方法でと私も担当の一人として考えています。長野県クラブを取り巻く人たちの友好的な輪を広げていく・理解者の声を集める・自分達のやっていることを広報を通して言っていく・ホームページで読んでいる人たちの声に答えていく・作品を展示と言う形で発信する事もとてもいい、新聞・ラジオ等・メディアを通じて意見を出す機会があるんだと言うことも、広めていかなければいけないと考えています。



※最後に伊平支部長に今日のこの活動の感想をお聞きしました。

一言…圧倒されました!! 長野さんははままりが良いとは聞いていました。活動もすばらしい、本音の会で色々な本音の意見が聞けてホッとしました。問題意識が高い人達の集まりなんだな〜ととても良い機会を頂きました、ありがとうございました。

同じ診断でも…ボランティア?!

アトリエくら 倉島 明

行政が事前に組んだ予算を守りながら事業を行うというスタイルをとっている以上、競争入札を排除していくのは難しいのかなとも思いつつ、建築家(設計者)を取り巻く環境の難しさを考えていました。民間でも設計監理業務の契約の時期、金額、なかなか難しいものです。そのあたりを見ても「倫理」が無いと成り立ちようがない世界なのがよく分かります。耐震強度偽造の問題により、少しは建築を取り巻く問題が改まっていくかと思っていたけれど、どうも残念な結果に終わりそうな雰囲気です。現在、県や市で進めている木造住宅の簡易耐震診断が1件やって5千円。なぜこうも不当な金額設定がまかり通るのか。国民の生命と財産を守るための仕事だからボランティアの精神で…と納得しかけていたけれどやっぱりおかしい。より直接的に生命と関わる(という扱いの)医療関係の報酬はボランティア的な価格になっているのでしょうか。なぜ我々だけが…?



「本音で語る会」まとめ

職能委員長 片倉 隆幸

伊平支部長をお迎えして建築家憲章を会員が深く確認するとともにJIAの危機と危機感の欠如にいたる問題まで、内部の再生から外部の再生まで建築家を取りまく様々な環境について話あった。土法改正により登録建築家の役割はますます重要になった。倫理規定、行動規定、建築家個人の品位から設計者選定の話まで幅広く討論される。また学生コンクール、会員作品展は市民を巻き込みながら建築家が訴えるべきだという話がでた。今、話していることを市民にきちんと伝えるべきだということなのです。また内容も決まらないことに対して値段だけで決める設計入札に関しては、設計者の力量を判断していないのでこんな例は世界的にも稀な恥ずべきことだと思う。職能委員会としても前年児野職能委員長がまとめてくれたものをもとに再度練り上げ県へ請願したいと考える。会員がより対話を深め市民とともに品位のある行動をして職能倫理を守っていくことを約束した一日であった。



技術交流会 発表を終えて

(株)新和建材 水谷 健治

先日の茜宿での技術交流会に参加させて頂きましてありがとうございます。

たまたま床暖房のプレゼンが重なってしまい、申し訳ない気持ちと少しの不安が頭をかすめました、何とか無事終了できましたほっと胸を撫で下ろしました。

元々自分は電気にはずぶの素人です。そんな自分がまさか電気床暖房を扱うなんて思ってもいませんでした。しかし縁あってゆかい〜なという製品と出会い、床暖房という物が、単に足元を暖めるだけじゃなく、部屋全体を暖める主暖房になる事を知りました。少しばかり電気の勉強もしたりしました。難しくてさっぱり解りませんが・・・

そんな素人が扱う「ゆかい〜な」ですが、バックにはプロの集団や大メーカーがついております。どうぞ皆様、新日本石油の「ゆかい〜な」をよろしくお願い致します。



忘年会に参加して

(株)角藤東北信支店 松岡 純一

JIA 関東甲信越支部長 伊平則夫様乾杯の御発声で、忘年会が始まりました。繁華街で行なわれる忘年会とは、どこか違う。それは、ここ松本薬師平崖の湯 茜宿が静寂な為か？はたまた、参加しているメンバーに依るものなのか？答えは、参加した事のある方なら、すぐ分るはずである。両方である事!!

今回も、長野県クラブの皆さんが、本音で語ろう会の第二ラウンドの場と化した会場で、建築家としての使命・あるべき姿・品格・まちづくり等々についてお酒を呑みながら熱く語り合っています。賛助会員である私は、皆様の仕事に対する情熱に、ただただ関心させられ、いつもの事ながら、大変な刺激を受けています。

隣の会場の2次会では、ワインボトルを何本空けたでしょうか？ワインボトルが運ばれて来る度に、乾杯!乾杯!の大合唱。有意義で、大変盛り上がった忘年会。静寂な茜宿も今夜ばかりは...ごめんなさい!!



「JIA 建築家大会2006奈良」報告(11/9〜11/11)

長野県クラブ会長 西沢利一



11/9 午後1時から始まる全国各地域合同会議に間に合うように朝6時の列車に飛び乗った。京都から奈良に向かう電車で、松原さん、寺本さん、伊平さん、中田(準)さん、木村さん、大宇根さん、穂積さん達と一緒に、東京の支部会議から続いている財政問題等について話題になった。

奈良県新公会堂で行われた地域合同会議は、「全国防災ネットワークの構築に向けて」というテーマで、大羽賢さんの司会で進められた。阪神や中越の際の反省に基づいて、全国的にネットワークを組むという考え、新潟の上山さんと私で、当時の中越震災時の動きと印象を発言した。中田災害対策委員のまとめで、各地域会で取組みをお願いしたいという事で今年度中に決めたいと思う。

2. 新第3者監理マニュアルについて、只野さんから説明があった。現場における設計者の立場について、いすれ明確な指針を伝達できると思う。
3. 小規模建築設計契約書の改定について、森岡さんから説明があった。当クラブでもレクチャーを受けており、後は士法改正に伴う対処だけが、是非会員の皆さんにも利用してもらいたい。

4. 財政再建について、仙田会長以下理事のメンバーが加わって協議に入った。会長は規約を変えずに年会費も現状維持で乗り切りたいようだが、大変難しい状況だ。現状の活動を維持していけるのか問題山積み、来年からの団塊世代の大量のリタイアが当然影響が出るし、ビッグファーム以外の若い人の入会もままならな

いとすれば、独自の活動を考えなければならぬ時がきている。興野さんには未来に向けて、倫理の再構築と規約の改定もやむをえないという話をした。途中、新人賞審査会に顔を出した。窪田さん(毎回挑戦しておられるが今年は2点出していた)以外に建築に見えなかったが、さてどうなるか？夕方からデザインフォーラムに参加した。地元の建築家2名が作品の発表をし、それについて討論するという、発表側にとって冷汗の連続だった。最初の作品は古い商店街に建つガラスのボックスだが、激烈的な批評は奈良という古い都で生きる建築家にとつて足元を見つめるよい機会となった。もう一つの作品は細見の京都風住宅で、奈良の骨太さを批評された。奈良郊外という言い訳をしていたが郊外も奈良だと言われ、地域風土の特性を掴む感性を要求されていた。

11/10 朝から奈良県文化会館で行われたまちづくりイベントに参加した。相変わらずの柴田夫妻の地域資産的手法であった。町は昔から作るうと思つて成立した訳ではなく、良識ある作法や慣習、個々の熱意から生まれてきたはずだ。我々が出来る事は、人々にそれを再認識させる事であった。そこから生まれる手法を一緒に考えていく以外にないと思う。決して経済や資産形成が最初にあるべきではないと感じた。午後はいよいよ大会式典だ。

仙田会長の基調報告に始まり、雅楽の演奏、表彰式が行われた。25年賞は、その作品を知らない世代が受賞を受けるというのは少し違和感を覚えた。その後、環境セミナー(木の伝統建築に学ぶ)は面白かった。新しい技と古い技をどう結びつけて行くかは身近な問題だけに、下積みが少ない建築家にとっては、考えさせられるテーマだった。

夕方パーティーの行われる午後6時30分までの間に、歩いて5分程の吉村順三さん設計の奈良国立博物館で行われている正倉院展をみえた。聖武天皇(724〜748)時代の事績に関する宝物が展示されていた。あまり期待した程ではなかったが、自分がそこまで達していないところか？

パーティーは大盛況で想像を超える人が参加していた。若草山、春日山を背景に、公会堂の広い庭は、種々の独特の雰囲気だった。海外からの招待客を含め多くの人と話をし、オカリナの演奏も素晴らしい。長野からは倉橋さんが出席した。その後、倉橋さんを含め、群馬の永井さん、曾田さん、そして大宇根さん、島根の会長矢田さん達と2次会をした。その中で近頃の建築が短命という事や、ディテールの話になった。群馬の富弘美術館、鬼石町多目的ホール、邑楽町庁舎コンベの頼末、それに伴う公開コンベをやめる動き。長野県では、塩尻コミュニティーセンター公開コンベ審査、茅野文化センター+図書館、他では金沢21世紀美術館、ホテル東光園、V出雲大社庁舎、等々、横浜がQBSをやめた経過、JIAの建築大賞、多義に渡って夜も更けていった。

建築の寿命という基本的姿勢を忘れてはならないし、建築は誰のものかという根本を再認識する必要がある。

11/11 今日日はエクスカリシジョンの日で、東大寺、春日大社、平城京跡をめぐる。申込をしていなかったため、金魚のフンのような顔をしてしまった。特に二月堂はよかったです。平城京跡地の広さにはびっくりした。午後はどうしても訪れたい秋篠寺へ足を向けた。別名奈良の苔寺と呼ばれ、小雨が別世界を助長していた。そして楽しみの伎芸天に出会ってきた。ついでに西大寺をまわって、空海の像に對面して奈良の都を後にした。

11/11 今日日はエクスカリシジョンの日で、東大寺、春日大社、平城京跡をめぐる。申込をしていなかったため、金魚のフンのような顔をしてしまった。特に二月堂はよかったです。平城京跡地の広さにはびっくりした。午後はどうしても訪れたい秋篠寺へ足を向けた。別名奈良の苔寺と呼ばれ、小雨が別世界を助長していた。そして楽しみの伎芸天に出会ってきた。ついでに西大寺をまわって、空海の像に對面して奈良の都を後にした。



木曾平沢まちなみウォッチングに参加して

HAL設計室所属 丸澤 直靖



冬の寒さが真直に迫った11月下旬、木曾平沢から奈良井宿にかけてのまちなみウォッチングが大共木材さんの木曾絵についての説明から始まりました。

その後歩いた平沢の町並みは、曲がった道と雁行する家々との間の「アガモチ」と呼ばれる空間が連続しており、道の奥行きが

感じられる変化に富んだ景観が印象的でした。また、家の奥にある蔵の中まで見学でき、その中で漆器がつくられる様を垣間見る事ができました。実際にそこで漆器製作に携わる方から生の説明が聞け、漆器の勉強にもなりました。

午後には奈良井宿へ移動して町屋の再生現場を見学し、さらには木曾を拠点に活躍する木曾アルテック社の社長のお話を伺う機会にも恵まれました。漆器を中心に伝統的な町並みや職人の技を受け継がんとする様々な活動に触れる事ができ、その魅力に浸った一日でした。



平井宿ウォッチングに参加して

信州大学土木研究室修士1年 池田 千加



今回わたしたちは、学部の3年から修士の2年までの計11人で参加させていただきました。11人みんなで楽しんだのはもちろんですが、その学年や出身の違う11人それぞれが、違うところに興味を持ち、違うところで感動して、一人一人が本当に素敵な体験をすることができました。

大共木材の方、木曾アルテック社の社長さん、再生工事現場の大工の方。今回、さまざまな方とお話しする機会をいただきました。現在わたしは、建材として使われる木の種類について知識を深めたい、と考えています。そのため、大共木材の方と木の特徴やそのくせについて直接お話しできたことが、わたしの、この日一番のできごとでした。

わたしたち学生にとって、現場で働く方々と直にお話しできるということは、何よりも嬉しいことです。またこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思っています。

本当にありがとうございました。

第16回保存問題東京大会が開催されます 東大で勉強しませんか！(最初で最後かも)

JIA関東甲信越支部保存問題委員会は、新春2月17日(土)・18日(日)に第16回保存問題東京大会を開催します。テーマは「保存問題の現在(いま)を考える」で、大げさに言えば建築の現状を通して日本の今後のあり方を考える場としています。この委員会は「保存と開発は同等」と捉え、正面から取り組んでいます。しかし建築行為の現状は表面的な経済性・安全性という美名のもとスクラップアンドビルドが繰り返され、人類の英知を捨てたことによる文化的ストックは絶望的な様相を呈しています。

一方、私たちは地域にあっても東京に追従する事で明日の発展の為に日夜努力していますが、結果的に地域のストックは失われ続けていると言えます。

長野県クラブ副会長(支部保存問題委員長) 川上 恵一

ひとたび東京に出れば現代の最先端の現実が否応なしに目に飛び込み、質・量ともに圧倒されます。東京大学のキャンパスはその縮図です。

会場はなんとその東京大学のキャンパスで、建物すべてが文化的ストックの対象で、居ながらにして「保存」を体験できます。

身銭をはたいてこそ価値があります。新年のブルティンにも詳しい案内が出ますが、予約ですぐいっぱいになってしまいます。手に取り次第すぐ申し込みをして、この機会を是非お見逃しなく！



新賛助会員の紹介

信越ビーアイビー 小林 義孝



JIA長野県クラブ賛助会に入会させて頂くことになりました、信越ビー・アイ・ビー小林義孝と申します。

当社は平成6年3月人と地球にやさしい高性能住宅を建設する目的で創業致しました。断熱工事・窓・冷暖房・換気設備工事をしていきます。

信大工学部との協同研究では無暖房住宅実験棟での1年間の実測データを元に今年の日本建築学会で論文発表も行いました。この分野で一層社会貢献が出来るよう精進したいと思っていますので、どうぞ宜しくお願い致します。

(社)日本建築家協会・〈JIA長野県クラブ〉

建築祭

開催日/2007年3月18日(日)19日(月)
場所/長野市生涯学習センター(トイゴ)4階
ホワイエ・大学習室3

①第16回「長野県学生卒業設計コンクール・公開審査会」
3月18日(日)13:00~17:00 19日(月)9:30~16:00
※ゲスト審査委員 建築家・国広ジョージ氏

②第15回記念「文化講演会」
3月19日(月)14:00~16:00
講師 建築家・石井 修氏

③JIA長野県クラブ・会員建築作品展(作品募集中)
3月18日(日)19日(月)2日間

※問い合わせ:JIA長野県クラブ事務局

編集後記

清水寺住職の力強い筆運びで描かれた今年の字「命」を目にしながらい今年も慌ただしい年の瀬を迎えている。いつもながら締め切りを前にして、少しは役立つ情報発信ができたろうかと懸念が頭をもたげてくる。原稿を担当して頂いたJIAメンバー皆さんのご協力でごうしてまた1号を送り出せてよかったと思う。感謝。感謝。今年新しい試みとして、ホームページで「建築家のひとりごと」(賛助会員のひとりごと)シリーズを始めた。気楽な無題の言いたい放題ページ。投稿をお待ちしています。来年も何か新しい企画を提案します。お楽しみに。編集後記というよりも広報委員会の今年の総括になってしまいました。林委員長以下委員の皆さん、ご苦勞様でした。来年は原稿の督促に煩わされないといいな。なんて…早めの初夢です。副会長(広報担当)赤羽吉人

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人/林 隆 発行所/JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

発行人/西沢利一

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp